

生成AI新ルール案のジレンマ：イノベーションと権利保護の板挟み

開発者側の懸念：産業競争力への打撃

「正直者が損をする」構造的欠陥

情報開示する企業は訴訟リスクを負い、非開示の海外勢が有利になる。



海外勢



情報開示企業

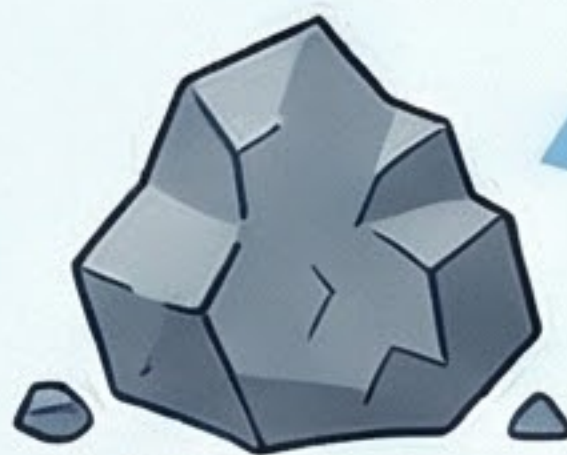
非現実的な「URL単位の照会」対応

巨大データからのURL特定は技術・コスト的に困難で、スタートアップの障壁となる。



開発者が直面する2つのリスク

「コンプライ（遵守）」 「エクスプレイン（説明）」



高訴訟リスク



社会的批判のリスク

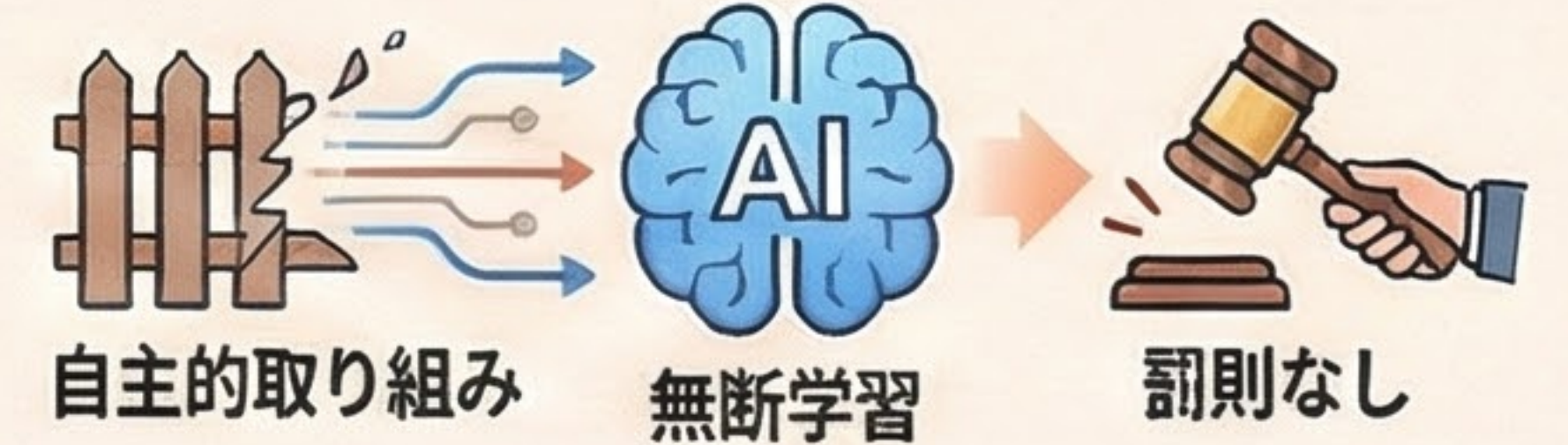
遵守か、さもなくば説明か
(Comply or Explain)



権利者側の不満：実効性なき保護

罰則なき「ソフトロー」への不信感

自主的な取り組みだけでは、著作物の無断学習を止められないと主張。



法改正による抜本的解決を要求

robots.txtの遵守義務化や、学害利用への対価支払いを法で定めるべきと訴える。



立証困難なクリエイターの「泣き寝入り」



データ開示が回避されれば、個人のクリエイターが権利侵害を証明するのは極めて難しい。